

令和4年 11月 30日

桑名市議会議員 辻内 裕也 様

会派名 無会派

代表者氏名又は議員氏名

伊藤 研司



政務活動費収支報告書

桑名市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、令和4年度政務活動費収支報告を提出します。

1 収入

政務活動費 400,000円

2 支出

| 科目 | 金額 | 備考 |
|----------|----------|----|
| 調査研究費 | 27,280円 | |
| 研修費 | 円 | |
| 会議費 | 円 | |
| 広報・広聴費 | 372,720円 | |
| 資料作成費 | 円 | |
| 資料購入費 | 円 | |
| 要請・陳情活動費 | 円 | |
| 人件費 | 円 | |
| 事務費 | 円 | |
| 合計 | 400,000円 | |

3 残額

0円


(注) 備考欄には、支出の内訳を記載する。

会 計 帳 簿

| 支払 番号 | 年 月 日 | 支払項目 | 内 容 | 収 入 | 支 出 | 残 額 |
|----------|-----------|--------|------------|---------|---------|---------|
| | 令和4年4月15日 | | 政務活動費前期分 | 400,000 | | 400,000 |
| 1 ✓ | 令和4年4月18日 | 調査研究費 | タブレット端末通信料 | | 27,280 | 372,720 |
| 2 ✓ | 令和4年4月19日 | 広報・広聴費 | 広報紙郵送代 | | 125,341 | 247,379 |
| 3 ✓ | 令和4年7月19日 | 広報・広聴費 | 広報紙印刷代 | | 46,338 | 201,041 |
| 4 ✓ | 令和4年8月8日 | 広報・広聴費 | 広報紙郵送代 | | 120,596 | 80,445 |
| 5 ✓ | 令和4年8月8日 | 広報・広聴費 | 広報紙印刷代 | | 34,679 | 45,766 |
| 6 ✓ | 令和4年10月5日 | 広報・広聴費 | 広報紙郵送代 | | 45,766 | 0 |
| | | | | 400,000 | 400,000 | 0 |

支払伝票

令和 4 年 4 月 18 日

| | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 会 派 名 又 は 議 員 名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又 は 議 員 印 |  |
| 会 計 年 度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 1 |
| 支 払 項 目 | <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研 修 費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人 件 費 <input type="checkbox"/> 会 議 費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事 務 費 | | |
| 検 収 年 月 日 | 令和 4 年 4 月 18 日 | | |
| 支 払 年 月 日 | 令和 4 年 4 月 18 日 | | |
| 支 払 金 額 | 27,280 円 | | |
| 支 払 先 | 桑名市長 | | |
| 使 途 内 容 | <p style="text-align: center;">タブレット端末通信料 27,280 円</p> | | |
| 備 考 | <p>※1人1か月あたりタブレット端末通信料3,410円(税込)</p> <p>3,410×1人×8か月 = 27,280円</p> | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書等貼付用紙

| | |
|------|--|
| 整理番号 | |
| 支出科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 会議費 <input type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 事務費 |

桑名市 24-205

納入通知書兼領収書


〒 511-8601
 住 所 三重県桑名市中央町2丁目37番地

無会派

伊藤 研司 様


| 年 度 | 伝票番号 | 予算 | 会計 | 所属 |
|-----------|-----------------|------------|----|-------|
| 4 | 0003200 - 001 | 0 | 1 | 30010 |
| 款 項 目 節 | 1 | 議会費収入 | | |
| 21 4 3 細節 | 10 | タブレット端末使用料 | | |
| 金 額 | 27,280 円 | | | |
| 納 期 限 | 令和 4 年 5 月 31 日 | | | |
| 所 管 課 | 議会事務局 | | | |
| 摘 要 | タブレット端末通信料 | | | |
| 発 行 日 | 令和 4 年 4 月 15 日 | | | |

上記金額を納入してください。

桑 名 市 長 

上記の金額を領収しました。

桑名市指定金融機関
 桑名市指定代理金融機関
 桑名市収納代理金融機関



※領収日付印のないものは無効です。

(納入者保管)


桑名市 24-205

領 収 書 等
 添付合計金額

27,280 円 (内、政務活動費充当額 27,280 円)

支払伝票

令和 4 年 4 月 19 日

| | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 会 派 名 又 は 議 員 名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又 は 議 員 印 |  |
| 会 計 年 度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 2 |
| 支 払 項 目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研 修 費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人 件 費 <input type="checkbox"/> 会 議 費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事 務 費 | | |
| 検 収 年 月 日 | 令和 4 年 4 月 19 日 | | |
| 支 払 年 月 日 | 令和 4 年 4 月 19 日 | | |
| 支 払 金 額 | 125,341 円 | | |
| 支 払 先 | 日本郵便株式会社 | | |
| 使 途 内 容 | <p style="text-align: center;"> 広報紙郵送代 125,341 円 </p> | | |
| 備 考 | | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書等貼付用紙

| | | | | | |
|------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|--|--------------------------------|
| 整理番号 | | | | | |
| 支出科目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 | <input type="checkbox"/> 研修費 | <input type="checkbox"/> 会議費 | <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 | <input type="checkbox"/> 資料作成費 |
| | <input type="checkbox"/> 資料購入費 | <input type="checkbox"/> 人件費 | <input type="checkbox"/> 事務費 | | |

領 収 書

第 142308-16 号

| | | | | |
|-------------------|------------------|---|--------------|------|
| おなまえ | 桑名市議会無会派 伊藤 研司 様 | | <領収内訳> | <備考> |
| 受領金額 | 百万 | 千 | 現金 105,341 円 | |
| | | | 小切手 円 | |
| | | | 切手 円 | |
| | | | 証紙 円 | |
| | | | キャッシュレス決済 円 | |
| | | | (決済ブランド名:) | |
| 金額欄を訂正しているものは無効です | | | | |

| | |
|--------|--|
| お取引の内容 | |
| 郵便 | 切手・葉書・印紙・販売品の販売 郵便料金の収納 (別納 計器予納金 受取人払 着払 その他) |
| 貯金 | |
| 保険 | 保険料の払込み |
| 物販等 | 店頭販売商品の販売 カタログ販売 その他 |

上記の金額を、確かに領収いたしました。

取扱郵便局 桑名播磨 郵便局

2022 年 4 月 19 日

電話番号 0594-22-4237

日本郵便株式会社

(所在地: 東京都千代田区大手町2丁目3番1号)

取扱者氏名

※ 裏面の「ご注意」欄をご確認ください。

第 142308-16 号



領 収 書 等
添付合計金額

125,341 円 (内、政務活動費充当額 125,341 円)

常に現場主義! 桑名市議会議員 伊藤研司の発言・活動報告

市民の方々からの税金(血税)で活動させて頂いている私の基本的な考え方
子・孫世代の教育・医療・福祉・環境・人口…財政問題等を考えての言動が必要!

次世代を見据え、小・中学校のあり方について

児童・生徒数の推移から考える

《伊藤研司議員・発言の主旨》



本議会で人口推計パネルを手に
発言する。

【我が国における総人口の推移】

- ① 2050年には9,515万人になる。
- ② 生産年齢人口は51,8%になる。
- ③ 高齢化率は39,6%になる。

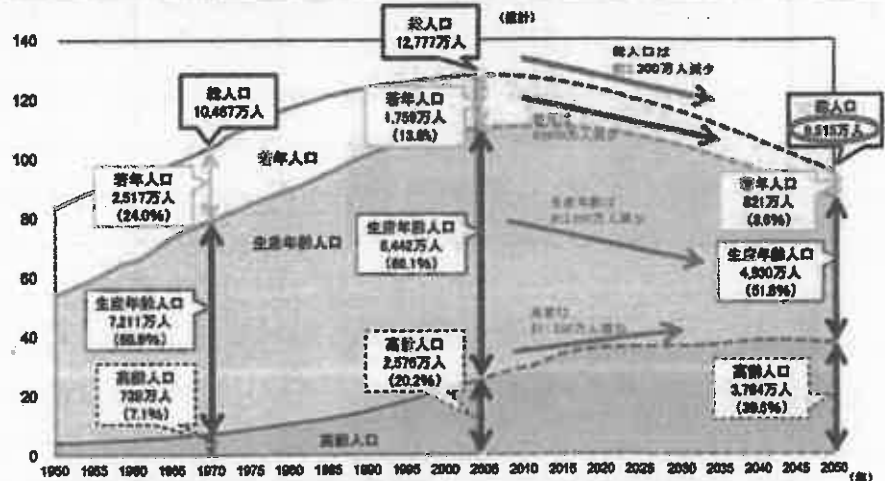
結果、労働者一人で「高齢者+若年層」の生活を支えていく必要な時代となります。

それは、桑名市でも【桑名市の人口減少と人口構造の変化】から、同じような傾向にあることが理解できます。

学校の建設問題を語る時には、教育そのもののあり方は当然として、地域の人口推移を考えながら語る必要があると思っています。

我が国における総人口の推移 (年齢3区分別)

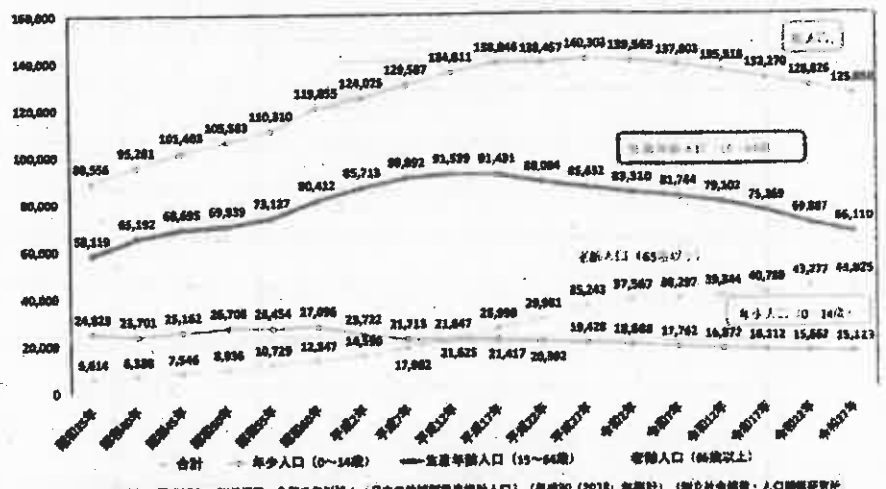
- 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人(約25.5%)減少。
- 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。



【出典】「国土の長期展望」中間とりまとめ 掲載(平成23年2月21日国土政策推進部政策部長明原隆委員)

↑ 出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ:全国版

人口減少時代:桑名市の人口減少と人口構造の変化



【出典】昭和36年～平成27年:国勢調査、令和2年以降:【日本の地域別総人口】(平成30(2018)年推計)【国と社会調査・人口問題研究所】

↑ 出典:国立社会保障・人口問題研究所:桑名市版

A案:施設一体型の小中一貫学校を建設せずに「木造での小規模校」で行う ⇒ 国からの補助金問題…さらに、小学一年生での児童間の関係が9年間も続く心配がある…等々で現実的に困難と思える。

B案:現在の「桑名市役所+光風中学校」を解体して、明正・光風・成徳中学校を統合し施設一体型の小中一貫校を建設。大山田・長島地区はそれぞれ考える。

C案:桑名市教育委員会あり方検討委員会で議論されているように、現存する中学校ごとの小中一貫学校の建設。

私は、各小・中学校ごとの6年後の児童・生徒数から、一学年のクラス編成を調べてみました。おおよそ、2~5クラスのクラス編成が可能となることが分かりました。また、陵成学区のように一学年が5~8クラス編成になるのでは…?!とも考えられるのです。

さらに…現実的に旧桑名市で施設一体型の小中一貫校が出来るのは、どんなに早くても10数年後以降になるのですから、「光風・明正・成徳中学校」学区が現在の「市役所+光風中学校」跡地で一体となる考え方も浮上してくるのでは…?!と考えられるのでは…?!とも思えます。

(仮定)2027年度(令和9年)に校舎一体型の小中一貫教育を現行の分散進学(現実的には10数年後?~20数年後?になるのでは…?!と考えられる)で行ったとしたら…?



明正中学校(18,951㎡。1,192名。築年数・57年)
益世小(築年数・54年)。桑部小(築年数46年)。
在良小(築年数・50年)。城南小(築年数60年)



光風中学校(19,801㎡。1,222名。築年数・46年)
益世小(築年数・54年)。修徳小(築年数52年)。精
義小(築年数59年)。大成小(築年数57年)
立教小(築年数53年)



成徳中学校(27,474㎡。765名。築年数・55年)
修徳小(築年数・52年)。深谷小(築年数50年)。
大成小(築年数・57年)。大和小(築年数50年)



陽和中学校(25,894㎡。1,139名。築年数・35年)
城東小(築年数・27年)城南小(築年数60年)。
日進小(築年数58年)。立教小(築年数53年)。



正和中学校(27,452㎡。1,037名。築年数・47年)
久米小(築年数・49年)。桑部小(築年数46年)。
在良小(築年数50年)。七和小(築年数49年)。



陵成中学校(23,533㎡。2,005名。築年数・39年)
 大山田東小(築年数・42年)。桑部小(築年数46年)。
 藤が丘小(築年数26年)。



光陵中学校(23,194㎡。1,155名。築年数・32年)
 星見ヶ丘小(築年数・20年)。大山田西小(築年数36年)。
 大山田北小学校(築年数39年)。



長島中学校(28,056㎡。825名。築年数・35年)
 伊曾島小(築年数・42年)。長島中部小(築年数51年)。
 長島北部小(築年数43年)。



《桑名市長・答弁の主旨》

研司議員からは、目先の課題だけではなく、20年先も見据えた学校のあり方について検討すべき!とのご指摘であったかと思えます。

私と致しましても、コロナ禍での人口減少、出生数の変化に愕然とすると共に、議員ご指摘の通り、この先の学校のあり方とこの環境変化に危機感を覚えるところ です。

危機感の一つには、議員からもご紹介もありましたが、児童・生徒数が減少傾向にあることです。

現在、小・中学校の桑名市全体の総数では11,339人で10年前と比較して1,173人減少しています。

さらに、今年度生まれた子が小学校に入学する、6年先の学校現場では、今より、さらに1,250人を超える減少となり全小・中学生の総数が1万人を割り込む恐れがあります。

また、学校施設の建築年次等も含め問題提起を頂きましたが、学校を取り巻くインフラの改修も待ったなしの危機的状況と感じています。

今後、市内においては、校舎、体育館、プール等の施設のあり方については、少子化が進行する中において、児童・生徒数の確保、適正な集団維持が望まれますし、それに合わせた施設規模や機能の検討が重要になってきます。……(略)……

今後の社会環境の変化と学校現場への影響を考えますと一刻も早く、小中一貫校の整備を軌道に乗せ、全市的ビジョンを示していかななくてはならないと感じています。

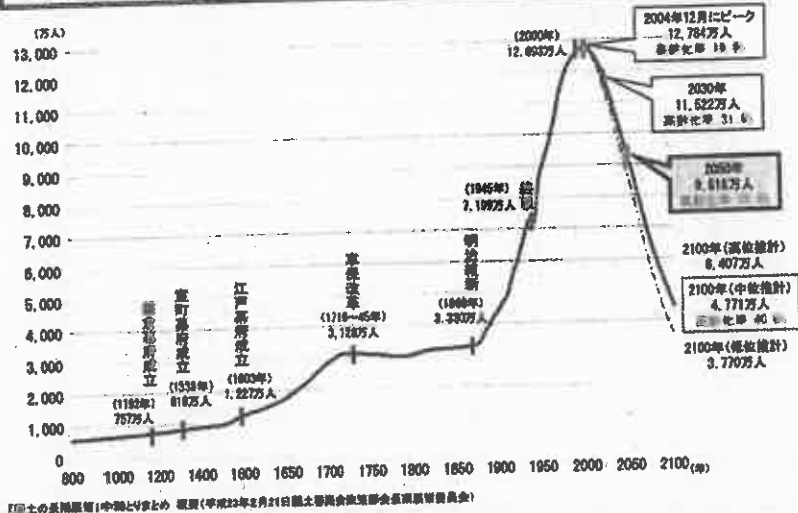
**外国の方々を含みマイスターを目指す
 匠(たくみ)の学校**

廃校になった学校の活用

《伊藤研司議員・発言の主旨》

我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でも見えない。極めて急激な減少。



課題1、全国的な問題として…学校の統合は出来ても、廃校になった学校の活用を、それまで以上に、地域の方々に喜んでもらえる具体的な政策を打ち出さないと、地域に受け入れられない…!

課題2、「生産年齢人口を含む人口減少化が進む日本…外国人技能実習生がいなくては、日本の産業は立ち行かなくなる…?!」と言われて久しい。

我が国は、多文化共生・国際貢献を謳いながら、実際には…

化に対する労働者不足を補うために外国人技能実習生制度を設けているフシも考えられる。

しかし、2010年には、国連専門家会議では技能実習生制度の廃止勧告が出ている事実もある。

私は、我が国の産業の発展のためにも…名古屋出入国在留管理局に收容されていたスリランカ人女性のウィッシュマ・サンダマリのように虐待されるのではなく、外国人の人権を守るためにも、桑名市が全国に先駆け・率先して、廃校になった学校を活用しての「匠の学校」の開校を訴える。

《教育長・答弁の主旨》

学校は、教育活動の場だけではなく、地域コミュニティの中心として、地域の方々に親しまれて来た場所でもあります。

閉校後の活用については、地域の方々と対話を重ねたり、関係部局とも協議しながら検討していきます。

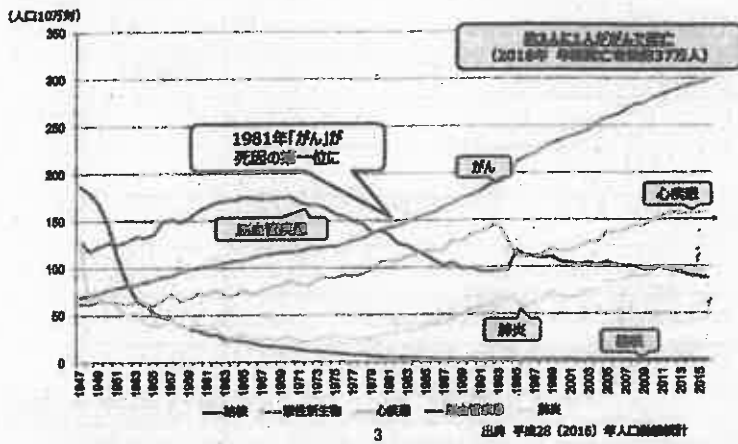
その過程で、民間事業者の方からも幅広く提案を求めていく事も必要とも考えています。

2人に一人がガンになり、3人に一人が ガンで天国に逝く時代を迎えて

連れ合い(妻)が胆のう・胆管ガンで天国に旅立った経験から

《伊藤研司議員の発言・主旨》

我が国における粗死亡率の推移（主な死因別）



今回の発言をするにあたり、連れ合い(妻)の大変な症状⇒酸素吸入器の必要性も考えられ…肝臓に2本の管を入れ、さらには胆のう?にも管を入れているという大変な症状にあったにも関わらず(本人はそれらの管を「お友達」と言っていました…)在宅医療を引き受けて下さり…雪の降る深夜にも訪問看護をして下さったり、また看取り時からお棺に入れる際にも、衣服の着替え…まるでしゃべりかけてくるような化粧をして下さった「ナースingもも」さん…「痛みだけは取ってください!」との願いを含む聞き入れて下さったり、患者の急変の時には主治医の先生に直接連絡を取りバックアップ体制を取って下さった「石賀在宅クリニック」の先生と

引き受けて下さった「総合医療センター」の主治医の先生…在宅での医療のコーディネートをして下さった「医療センターの地域連携室」のスタッフ及び「疼痛治療:痛みを除去する行為」に携わって下さった看護師の方々に感謝申し上げ発言に入ります。

連れ合い(妻)は、キリスト教系の病院が出身母体で、私と妻はホスピスの支援会員でしたが、手術後50日間の入院の後、自宅に戻った時「二度と我が家に戻れるとは思っていませんでした…」と、気丈な妻が涙を流して言った言葉で、「在宅での医療」を考えるキッカケとなりました。

私自身の経験から、より良い「在宅での医療・看護・介護」の実践のためには、「家族+医療・介護従事者」の患者への寄り添う姿が必要と思っています。

A:私が思う「病院での治療」と「在宅での医療」↓

- ①「在宅での医療」は、従来の「往診での医療」とは根本的に異なること。
- ②病院は、医療従事者が患者を診察・治療し、患者も治療に専念するところ⇒医療従事者の指示に従って患者は治療に専念する。
- ③在宅医療は天国に旅立つこともある患者に対し、患者に寄り添い見守り・治療するところ⇒患者・家族・医療・介護従事者が対等の関係で一体性が求められる。



天国に旅立つ4日前の写真。
「幸せな人生だった…」が最後の言葉。
結婚して49年。最高の笑顔。

B:在宅医療にも…?! ↓

- ①私の連れ合い(妻)が経験したようなガンの終末期のケア。
- ②脳梗塞などのようにリハビリすればある程度の回復も見込まれる可能性がある患者へのケア。
- ③老衰+病気の発症と思われる方へのケア。
以上のように分けての見方が必要なのではないかと、考えます。

桑名市地域包括ケア計画(H27版)には、「全員参加型で2025年問題を乗り越えるための地域支え合い体制づくり」とのメインテーマが記載されていますが、市内を回ってみると、全国でも同様と思われるのですが、「サービス付き高齢者住宅」

の建物が目につきます。

(本議会で発言した後、桑名市では終末期在宅医療が進んでいることが分かりましたので、詳細を6月議会で発言します)

p407には→「戦後の経済成長の中で、家庭での看取りが減少し、人が死んでいく過程を知らない若年層や子どもたちがほとんどになっていく。在宅の看取り機能を高めていくためには、在宅医療・介護の仕組みを構築するだけでなく、高齢者や家族、地域住民に対して、多様な看取りのあり方…等々情報提供が必要である。…。地域住民に対する『看取り教育』の充実が図られるならば、ターミナル期における本人・家庭の意思にそぐわない濃厚医療や救急搬送も減少していくのではないか。」と記載されています。

※小学生の約30%、中学生の約20%が死んだ人も生き返る…?!と知っているとの調査結果もある。

さらにp429・433・437には【バックアップ体制構築の重要性】について言及しています。

「主治医のいる病院」と「在宅医療クリニック」との連携…すなわち「主治医のいる病院のバックアップ体制」の重要性。

「在宅患者の急変に際しての一時的な入院」とのテーマでも、「主治医のいる病院のバックアップ体制」の重要性が記載されているのです。以上から質問します↓

Q:1《伊藤研司議員・発言の主旨》⇒「ガン患者における在宅医療クリニック」と「桑名市総合医療センター」とのさらなるコーディネート必要性及び在宅患者の急変に対応するバックアップ体制について!

《保健福祉部長・答弁の主旨》

桑名市総合医療センターでは、治療中であって一時的退院される場合、病院スタッフと在宅医療に関わる医療・看護の専門職がカンファレンスを行い、在宅医療での生活を見据えた情報共有とプラン作成を行うとともに、バックアップ体制として夜間・休日の急変時にもスムーズに受け入れが出来るよう、救急外来とも情報共有を図っていきます。

終末期を含むガン患者の方が、可能な限り自宅で治療して頂くには、在宅での医療スタッフと手術を行った病院のそれぞれの専門スタッフが連携し、患者と家族の想いを十分に理解し、在宅での医療を支えていく体制強化が必要と考えています。

Q:2《伊藤研司議員・発言の主旨》⇒「看取り教育」の市民の方々への周知について!

《保健福祉部長・答弁の主旨》

核家族化が進み、病院や施設で亡くなる方が8割を超える時代では、「看取り」を経験する機会が少ないため、命の尊さや命が受け継がれていくことを実感することが難しくなっています。

在宅での「看取り」がどのようなもので、人がどのように命を閉じていくのかということ、また、人生の最終段階において、在宅「看取り」という選択も考えられるという事を知っていただくことで、亡くなる方ご本人やご家族の意思を尊重することにつながるのではないかと考えています。

桑名市では、在宅医療・介護連携支援事業の中で、「看取り」に関する市民向け講

演会の実施や、人生の最終段階について家族で話し合う機会となるアドバンス・ケア・プランニング(人生会議)の普及を行っています。

Q:3《伊藤研司議員・発言の主旨》⇒総合医療センターを三重大学病院のサテライト病院(高度な先端技術・医療を行う直営の病院)にすることについて!

《保健福祉部長・答弁の主旨》

桑名市総合医療センターでは、三重大学との連携を強化して医師の確保を行うとともに、放射線治療装置等の高度医療機器を活用し、地域医療機関とのつながりを深めながら高度医療を行うほか、救急医療の受け入れに努めています。

……(略)……。

令和4年度には、ポストコロナを見据え、優秀な医療従事者の確保やより高度な先端医療を提供するため、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入を計画しており、今回の当初予算でその費用を計上しています。

ガン治療におきましては、先日、県のガン対策推進協議会にて協議され、質の高いガン医療を提供する「三重県ガン診療連携準拠点病院」として、令和4年4月から指定される予定となっています。

桑名の医療体制の充実のためには、三重大学との連携が重要になってきます。…

現在、医療・健康分野において安全で質の高い先進的な医療の提供を行うための、デジタルトランスフォーメーション「DX」の推進を柱としたさらなる連携の強化に向けて協議を進めているところです。

Q:4《伊藤研司議員・発言の主旨》⇒すい臓ガン、胆のう・胆管ガンを健康診断の項目に入れることについて?!

全国で、すい臓ガンの患者数は約4万4千人→桑名市の年間死亡者は約40人?

胆のう・胆管ガンの全国患者数は約2万5千人→桑名市年間死亡者数は約20人?

発見が難しいとされるすい臓、胆のう・胆管ガンを検査項目に…!

《保健福祉部長・答弁の主旨》



国立ガン研究センターが発表している「地域ガン登録による生存率データ」によると、部位別のガン5年生存率は、すい臓ガンは男性が8.9%、女性が8.1%、胆のう・胆管ガンは男性が26.8%、女性が22.1%となっており、他の部位と比較すると、共に命を救うのが難しいガンであります。

すい臓ガン、胆のう・胆管ガンの発見には、血液検査や腹部超音波検査に加え、CT検査やMRI検査といった詳細な検査が必要です。桑名市としたしましては、検査には専門の機器を使用するため、限られた医療機関での実施になることや、長時間の検査を要することなどの課題があり、現状として取り組むのは非常に厳しい状況であると考えています。ご理解下さい。

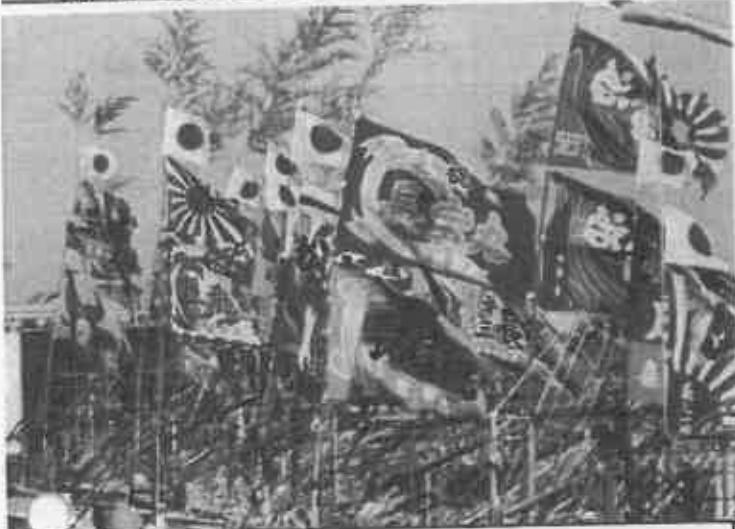
*最近の死因はガンがトップ。

写真下⇒彼女の知り合いのボランティアの方々。在宅医療の主治医・在宅医療を始められる医師、看護師の方々。

450年の歴史ある赤須賀の漁業

伊勢湾に、揖斐・長良・木曾川が流れ込む位置は桑名市

《伊藤研司議員・発言の主旨》



正月の赤須賀漁港。

撮影:伊藤研司

現在の我が国の食糧自給率は、生産額では約66%、カロリー計算では約38%とされています。先進諸国では最低の自給率です。…。

ヤマトしじみやハマグリに関して、赤須賀の漁師の漁船一艘あたりの一日の漁獲高の制限は何キロかご存じでしょうか…?! また、多くの漁師が制限漁獲高に届いていないこともご存じでしょうか…?!

伊勢湾に、揖斐・長良・木曾川の三川が流れ込んでいる位置は桑名市です。

木曾三川だけで、伊勢湾の約80パーセントを賄っていると言われています。

伊勢湾河口域での漁を維持するためにも、桑名市が旗振り役になる必要があるのでは!

2022年2月9日 中日新聞【中日春秋】

『…。不漁は三河湾のみならず、全国的な現象。この10年間で漁獲高は約8割の減。生育不良で潮干狩りが中止になる場所もある。エサのプランクトン不足などが原因とされ、各地で再生に向けた試行錯誤が続く。…。』との記事もあります。

※日本の食糧自給率向上のためにも農業・漁業振興策を…!

《産業振興部長・答弁の主旨》

赤須賀では現在、シジミ・ハマグリを対象とした貝類の採取が主な漁業となっていますが、いづれの資源も近年著しく減少しており、出漁を週3日に制限したり、1日の漁獲量をシジミは120キロ、ハマグリは10キロまでに制限したりといった「資源管理」に取り組まざるを得ない状況です。…。

伊勢湾の三重県側では、イワシ・アナゴなどの魚類、アサリ・シジミ・ハマグリ・バカガイなどの貝類、クロ海苔・アオ海苔などの藻類に関する漁業が盛んです。…。

魚類が数多く、地域ごとに扱う魚種や取扱高、漁業者数の規模などの違いから困難な面も感じています。また、同じ木曾川の漁場でシジミを採っている漁業者間であっても、愛知県と桑名市の漁業者とでは、資源管理の考え方に違いがあります。

木曾三川の「恵み」が十二分に享受できるよう木曾三川の河口部に位置する桑名市の立地を意識し、情報発信や関係者との協議に努め、赤須賀の漁業など市内水産業を次世代に引き継いでいけるよう尽力して参ります。


←シラウオ漁。二艘の漁船で網をひく。(橙色に見えるのが網と浮き)

名四国道の橋から伊藤研司が撮影。

「議会・活動報告」⇒郵便による郵送費は政務活動費。レイアウト等を含む印刷費・タックシール・封筒代は自費です。

支 払 伝 票

令和 4 年 7 月 19 日

| | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 会 派 名 又 は 議 員 名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又 は 議 員 印 |  |
| 会 計 年 度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 3 |
| 支 払 項 目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研 修 費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人 件 費 <input type="checkbox"/> 会 議 費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事 務 費 | | |
| 検 収 年 月 日 | 令和 4 年 7 月 19 日 | | |
| 支 払 年 月 日 | 令和 4 年 7 月 19 日 | | |
| 支 払 金 額 | 46,338 円 | | |
| 支 払 先 | ラクスル株式会社 | | |
| 使 途 内 容 | <p style="text-align: center;"> 広報紙印刷代(4000部) 46,338 円 </p> | | |
| 備 考 | | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書

日付: 2022年7月19日
領収書番号: R-220712239949

伊藤 研司 御中

ラクスル株式会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル 1F
tel:.03-4577-9200 mail: contact@raksul.com**¥46,338-**但し 商品代として
上記金額を正に受領いたしました。

| ご注文番号 | 商品名 / 商品仕様 | 部数 | 出荷日 | 金額 |
|-----------------|--|--------|----------------|---------|
| 220712239949-01 | 冊子・カタログ,中綴じ冊子,左綴じ,8ページ,A4,オフセット印刷,表紙(両面カラー 光沢紙(コート) 薄手:73kg 表面加工なし),本文(両面カラー 光沢紙(コート) 薄手:73kg) | 4,000部 | 2022年 7月19日 | ¥42,125 |

| | | |
|----------|-----|---------|
| 注文内容: | 商品: | ¥42,125 |
| 注文合計: | | ¥42,125 |
| 消費税: | | ¥4,213 |
| ご請求合計金額: | | ¥46,338 |

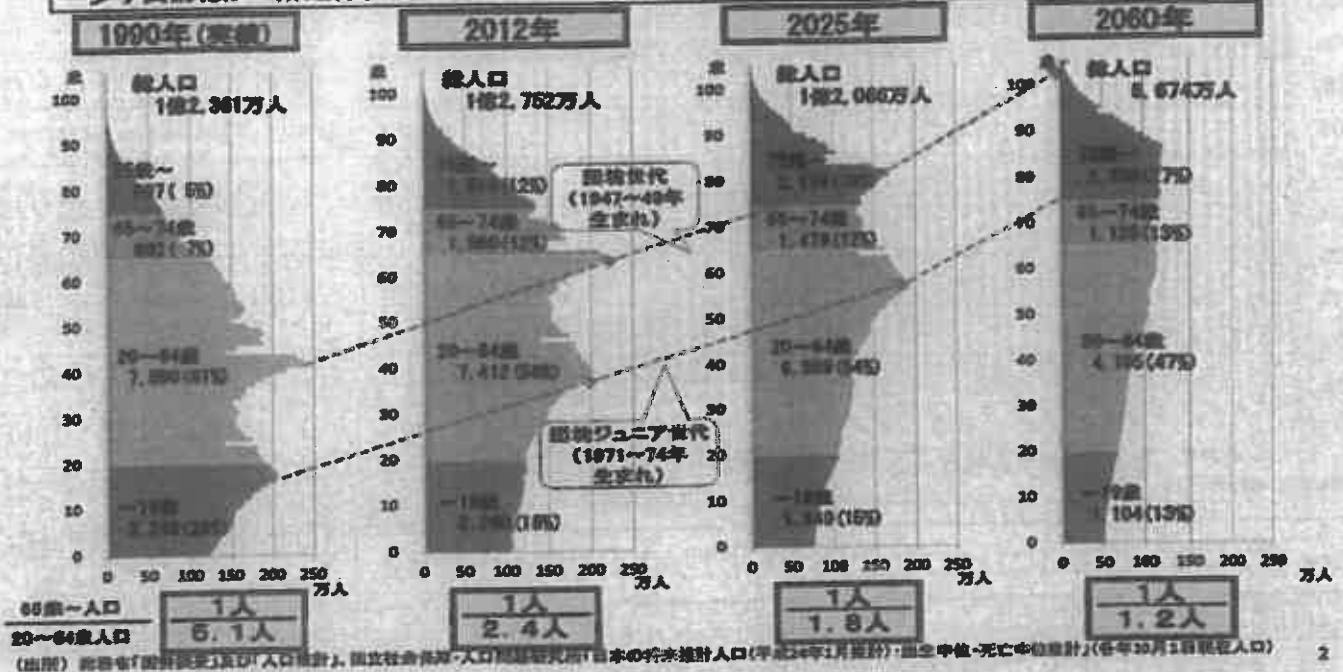
お支払い方法: クレジットカード

常に現場主義

桑名市議会議員 伊藤研司の発言・活動報告

人口ピラミッドの変化(1990～2060年)

○日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.4人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定



地域支え合い体制づくり

在宅医療・介護の推進」+「老障介護問題」を克服するために

《伊藤研司議員・発言の主旨》

「在宅医療・看護の推進+老障介護をなくす為に施設の充実」の問題は相反する問題の提
 げ…?!と、思われますが…私自身、連れ合いを今年の1月に天国に見送り、また30年近く
 障害者支援事業所や入所施設に関わっている人間の一人として、私の中では同じ問題で
 もあり、さらに、現在の日本の地域が抱える大きな問題ですからあえて同時に発言します。

在宅医療・介護による「看取り」を増やすための課題と施策は…?!

高齢者の入所希望者は全国で1万8千人が入所待ち。親が70歳台が多い。しかし、入所施設
 は減少傾向。

有料老人ホーム。サービス付き高齢者向け住宅。軽費老人ホーム(認知症の方々の入居を
 対象。定員は9～18名)。特別養護老人ホーム。介護老人保健施設。介護養老型医療施設。養
 護老人ホーム…等々の施設が多くあります。しかし、特別養護老人ホームや養護老人ホ
 ムは今後の施設建設はムリなようです。

高齢者入所で最も多いのが、有料老人ホーム(介護付き有料老人ホーム+住宅型有料老
 人ホーム+健康型有料老人ホーム)だそうです。

「団塊の世代」が後期高齢者になる数年後には、入所を希望しても金銭・施設的にもなか
 なか困難な時代になると思われます。

看取りに関わる状況③ 死亡の場所（年次推移）

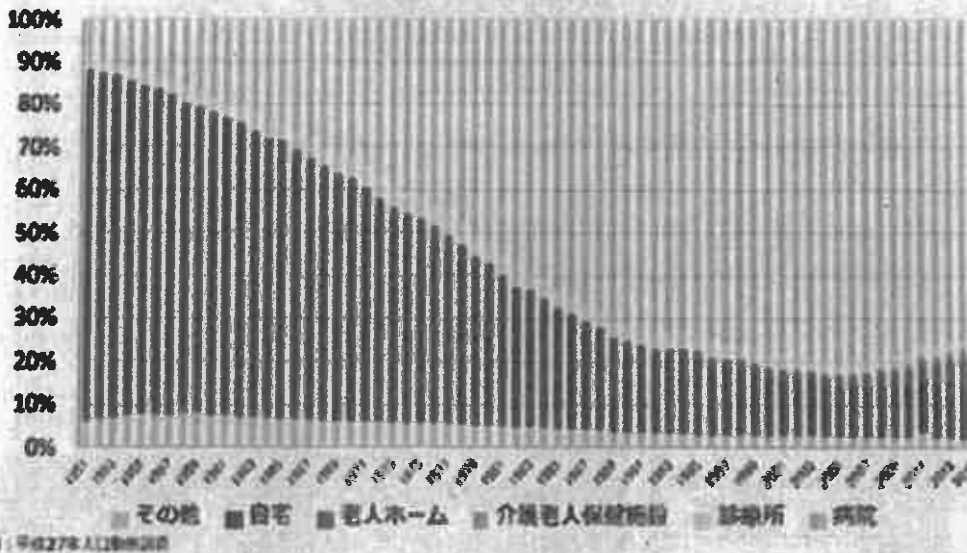
もちろん…お金の問題も大切ですが、重要なのが「家族・人間の死」と…?!という問題です。

例えば何故?…『在宅医療・介護:看取り』が必要か…?と、いう事です。

小学生の児童の約3割、中学生の生徒の約2割、人間・生き物は一度死んでもまた生き返る…と、思っている児童・生徒が、いるとの調査結果があるのもその主な理由です。

- これまで、自宅で死が減少し、医療機関における死が増加する傾向にあった。
- 近年、医療機関以外の場所における死が増加する傾向にある。

死亡の場所別にあつた年次別死亡数百分率



出典：平成27年人口動態調査

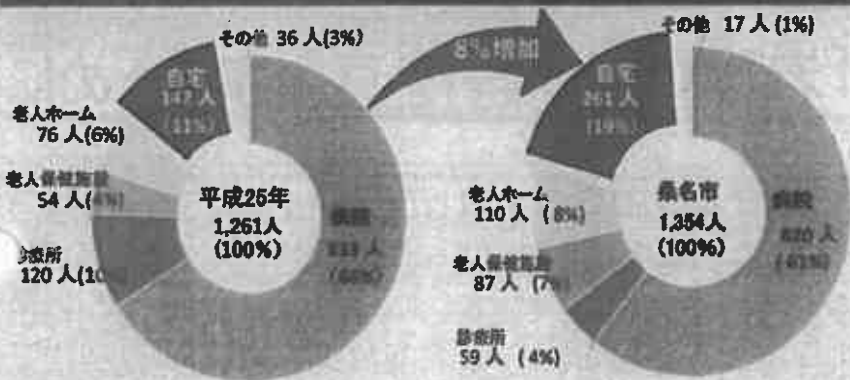
(赤い方)病院で最期を迎えられる方が多くなって来ています。出典:人口動態調査

また、内閣府が行った調査(H19年)「高齢者の健康に関する意識調査」では、自宅で最期を迎えたいと希望する人は半数以上にのぼった。それから、15年が経過している現在ではもっと増加していると考えられます。

重要なのは「死という事の意味・現実を家族・子どもに伝える+本人・家族の希望」⇒だから、『自宅で看取る』在宅医療・介護の重要性が増してくる…?!との思いで発言。

桑名市地域包括ケア計画にも記載されている「地域支え合い体制づくり」の実践のためには、子ども時代から学校や地域で障がい者や高齢者(老人)と交わる事が必要。

死亡場所別死亡者数 桑名市(平成25年→令和2年)



(出典) 人口動態調査

在宅医療での「看取り」を希望される方は、毎年多くなっています。

【看取り介護】

肉体や精神の苦痛を緩和させつつ、人としての尊厳を残したままの生活支援を目的としている。

《保健福祉部長・答弁の主旨》

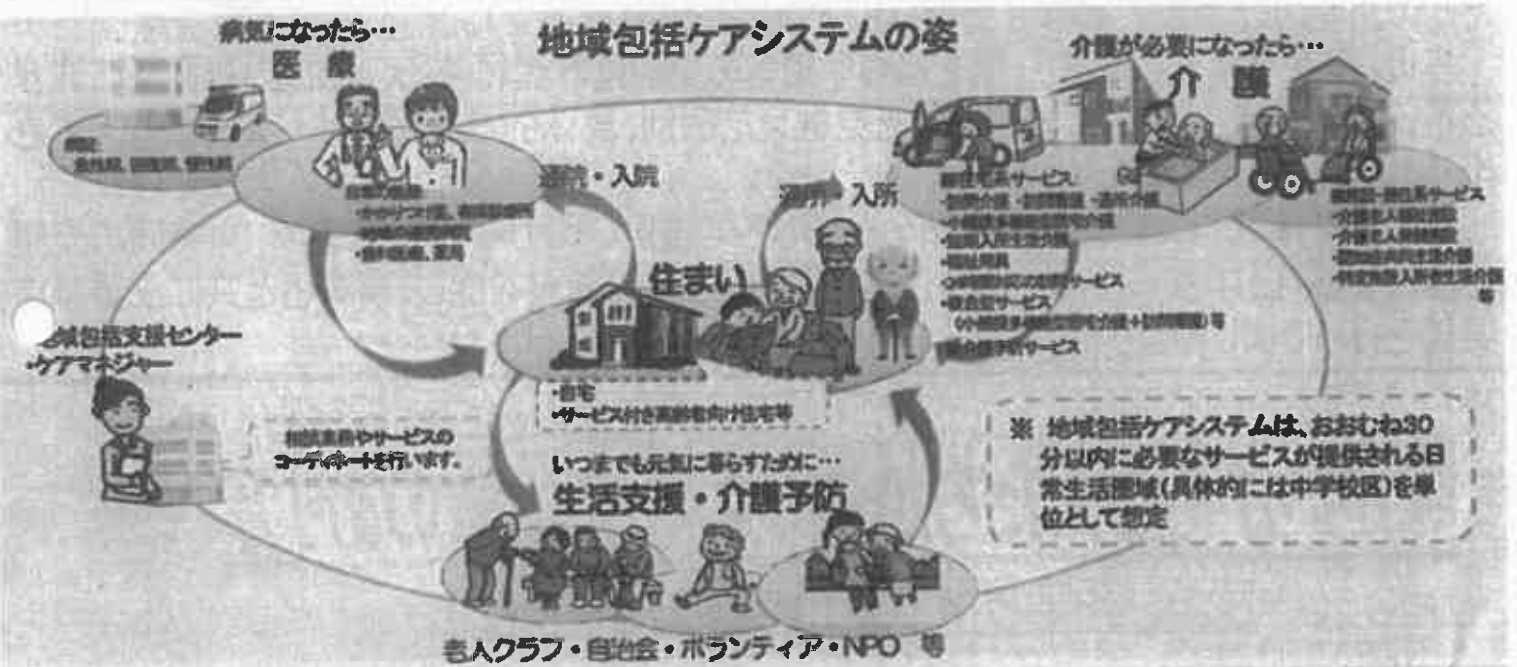


令和3年度の桑名市のニーズ調査によりますと、人生の最期を迎える場所として「自宅」を希望される方は約23%、「自宅を過ごし、必要になれば医療機関」を希望される方は約48%となっており、合わせて約7割の方が、出来る限り自宅を過ごしたい、と思ってみえる事がわかります。

ところが、令和2年度の死亡場所の統計によれば、実際に自宅で最期を迎えた方は、桑名市では約19パーセントに留まっています。

この結果から、人生の最終段階を自宅で過ごすことを望んだ場合、「看取り」を含めてそれが可能となるような環境を整備することと、家族の理解を得るための市民啓発が重要であることが浮き彫りになっていると感じています。

また、病院や施設等で亡くなる方が多くを占めている現代においては、若い世代や子ども達は、「看取り」の場合に居合わせる機会が少なく、命の重さを実感することが難しくなっている状況が続いており、その状況そのものが課題であると考えています。



現在、桑名市では、「最期の時を住み慣れたまちで迎えるという選択ができるまちを目指して」というテーマを掲げ、在宅医療の普及啓発や、切れ目なく在宅医療と介護の提供体制を整えることを目的とし、在宅医療・介護連携推進事業を、医師会と協同し、地域の医療機関や介護事業所と共に進めています。

その事業においては、「看取り」や、人生の最終段階について考えて頂く、アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)について、ふれあいトークや市民向け行事において啓発を行っています。

老障介護(高齢の親による障がいがある人たちの介護)をなくすために、障がいがある人たちの入所施設の定員拡大政策を！

《伊藤研司議員・発言の主旨》

障がい者…特に重度の障がいがある人がいる家庭の親御さんの一番の悩み事は、「親亡き後の子どものこと」です。桑名市・三重県でも障がい者施設への入所を待っておられる親御さんが多くおられる現実もあります。…(略)…。

《保健福祉部理事・答弁の主旨》 ↓

高齢の保護者が障がいがある子どもの介護を行う…いわゆる、「老障介護」が社会問題となっており、マスコミ報道などでも取り上げられています。

現在の障がい福祉政策では、施設入所から地域への移行がテーマの一つに掲げられ、入所施設の新設を抑制する半面、自立のための住居となるグループホームの充実や就労支援など通所系サービスの推進が図られており、桑名市におきましてもグループホームの利用者や就労支援事業所の通所者は右肩上がり増加しています。

しかしながら、障がいの重度化、高齢化に対応した受け皿として、施設の入所を希望される根強いニーズが存在しており、知的障がい者施設においては6月時点で、桑名市在住で17名、三重県全体で558名の入所待機者が存在しています。また、NHKの調査では、全国での待機者は少なくとも延べ1万8千人を数えるとも言われています。

今後、在宅で障がい者の介護を担う保護者の高齢化が進行することにより、介護に対する不安はますます高まり、親亡き後を見据えた個別、具体的な支援がより重要になってきます。

桑名市では、これまで、その方策の一つとして重度の障がい者を対象に、24時間の支援を提供する「日中サービス支援型グループホーム」の新設を促し、事業者と共に三重県に要望を行ってまいりました。

障がいがある人たちが通う支援事業所のあり方

支援事業所への行政の関わり方

《伊藤研司議員・発言の主旨》

私自身…障がい者支援事業所(当時は作業所と呼ばれていました)に関わって、30年が経ちました。私が障がい者支援事業所に関わり始めた時⇨(当時は作業所と呼ばれていました。人数によってAが850万円・Bが650万円・Cが450万円の補助金)。私たちが障がい者支援事業所を上げた時には桑名市には事業所は一か所しかなく、精神に疾患がある方々が通所する事業所は桑名市で初めての立ち上げでした。当時、私は作業所で3万くらい稼ぐ事が出来れば、障がい者年金+給料で…「一人でGH等で生活が出来る」と言っていた時代もあり、そのように活動していた時代には、私自身、障がい者を働かせて金儲けをするなんてとんでもない議員だ！とパッシングを受けた事もありましたが、現在では、事業所の売り上げを含む収益がメンバーの給与になり、スタッフの給与はメンバーさんの人数によって国(税金)から捻出される時代になってきました。さらに、支援事業所の数も⇨生活介護→10か所。就労継続支援B型→18か所。就労継続支援A型→14か所もの事業所が出来、時代も変わったものです。

A型・B型…生活支援…等々の障がい者支援事業所は、障がい者の社会参加・自立支援を第一義的目的として設置されているとの認識です。

ここ数年、企業の下請け的な労働をしている事業所が設置され、障がいがある方々の社会参加に役立っているようです。

桑名市内の事業所には無いとは思いますが…営利が目的化してはならないとの思いで、事業所のあり方が多種になり、複雑化してきている現状を踏まえ、行政も事業所の運営・作業の内容を知っておく必要があるのでは…?!と思っています。また、監査の大切さ

すく
再司
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

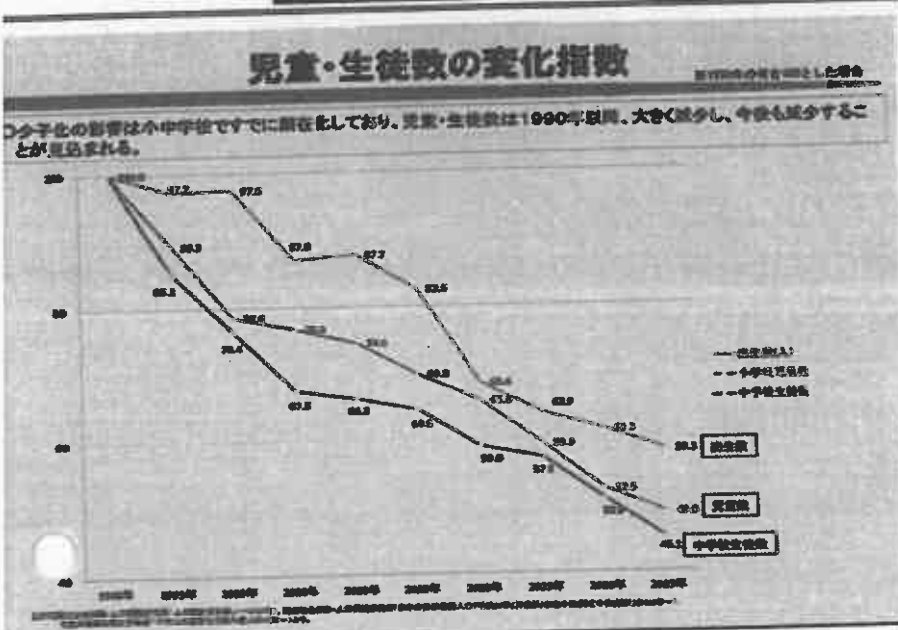
施設のあり方・事業内容・通所者の現状・思いについては、行政自身も把握しておく必要があるのでは…?!と思うのです。
具体的に知るためには監査を含めた聞き取りをするのが一番では…?!との考えです。
聞き取りを含めた監査のあり方について答弁を求めます!

健康福祉部理事兼社会福祉事務所長・答弁の主旨 ↓

……(略)……。障がい福祉サービス事業所の指導監査につきましては、三重県の福祉監査課の所管なっていますが、例えば…虐待の通報や事業所のサービスについての相談、苦情が寄せられた際には、桑名市の障がい福祉担当部署が必要に応じて事業所への立ち入り調査や事実確認を行い、相談支援事業所や警察をはじめとする関係機関との連携のもと、見状把握や原因究明、再発防止に取り組んでいます。

「施設一体型・小中一貫校」のあり方

桑名市の小・中一貫校のあり方…?!



《伊藤研司議員・発言の主旨》

小中一貫校が立ち上がるのは、早くて15~20年先の話と思うのです。これまで…桑名市は、各中学校ごとに小中一貫校を構築したい…との考えだった、と思っています。しかし…私が思うに、小中一貫校の敷地面積は、最低でも3万平米位は必要と思われます。
←出典:国立社会保健・人口問題研究所「人口統計資料集」

1990年を100とした場合の児童・生徒数の推移数。

桑名市内の中学校の敷地面積は ↓

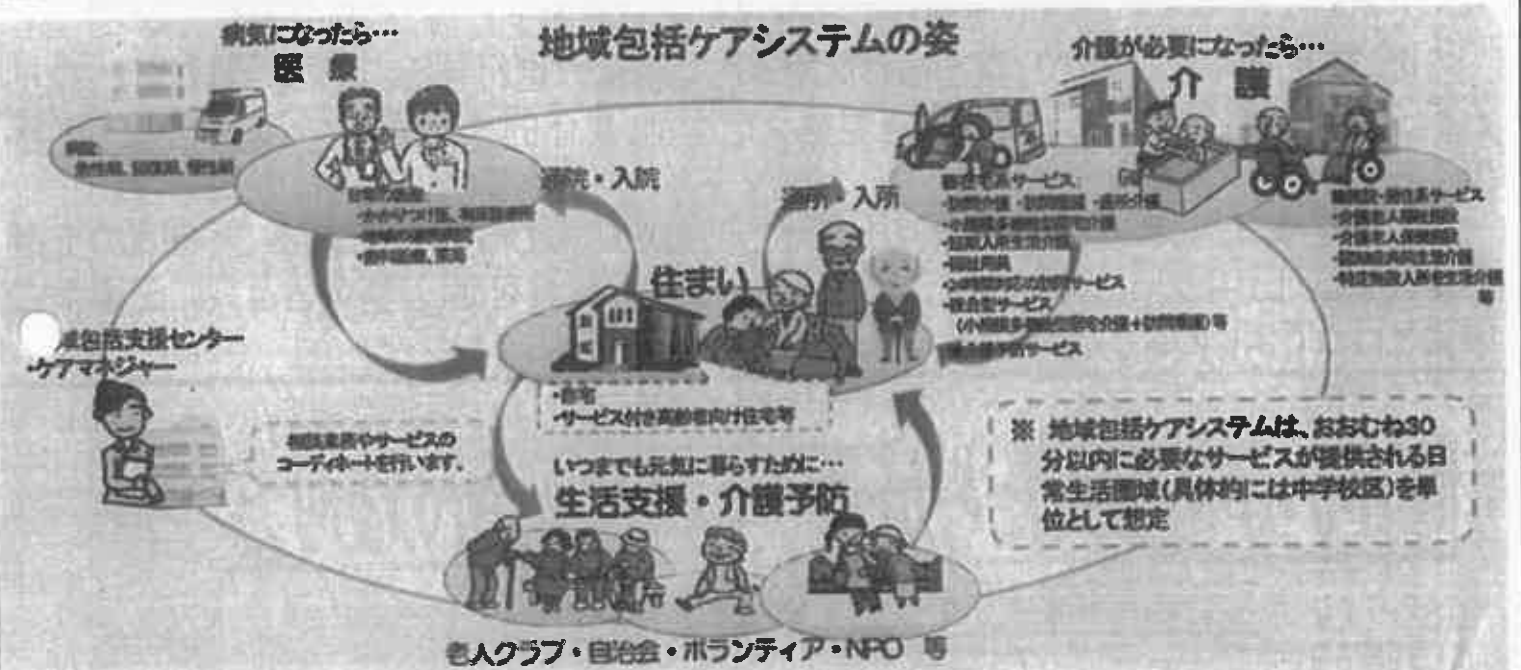
- 〔陽和中学校→約2万5千900平方メートル:広げる事が出来る可能性アリ:調整区域〕
- 〔成徳中学校→約2万7千500平方メートル:広げる事が出来る可能性アリ:市街化区域〕
- 〔正和中学校→約2万7千450平方メートル:広げる事が出来る可能性アリ:調整区域〕
- 〔綾成中学校→約2万3千500平方メートル:広げることは困難:市街化区域〕
- 〔光陵中学校→約2万3千200平方メートル:広げることは困難:市街化区域〕
- 〔光風中学校→約1万9千800平方メートル:広げることは困難:市街化区域〕
- 〔明正中学校→約1万8千950平方メートル:広げることは困難:市街化区域〕
- 〔長島中学校→約2万8千平方メートル :広げる事が出来る可能性アリ:調整区域〕

一例を申し上げるなら…人口…児童数が激減(私が小学校時代の益世小学校は一学年5クラスの1,250名の児童が在籍していましたが、現在では350名と激減している現実)

ところが、令和2年度の死亡場所の統計によれば、実際に自宅で最期を迎えた方は、桑名市では約19パーセントに留まっています。

この結果から、人生の最終段階を自宅で過ごすことを望んだ場合、「看取り」を含めてそれが可能となるような環境を整備することと、家族の理解を得るための市民啓発が重要であることが浮き彫りになっていると感じています。

また、病院や施設等で亡くなる方が多くを占めている現代においては、若い世代や子ども達は、「看取り」の場合に居合わせる機会が少なく、命の重さを実感することが難しくなっている状況が続いており、その状況そのものが課題であると考えています。



現在、桑名市では、「最期の時を住み慣れたまちで迎えるという選択ができるまちを目指して」というテーマを掲げ、在宅医療の普及啓発や、切れ目なく在宅医療と介護の提供体制を整えることを目的とし、在宅医療・介護連携推進事業を、医師会と協同し、地域の医療機関や介護事業所と共に進めています。

その事業においては、「看取り」や、人生の最終段階について考えて頂く、アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)について、ふれあいトークや市民向け行事において啓発を行っています。

老障介護(高齢の親による障がいがある人たちの介護)をなくすために、障がいがある人たちの入所施設の定員拡大政策を！

《伊藤研司議員・発言の主旨》

障がい者…特に重度の障がいがある人がいる家庭の親御さんの一番の悩み事は、「親亡き後の子どものこと」です。桑名市・三重県でも障がい者施設への入所を待っておられる親御さんが多くおられる現実もあります。…(略)…。

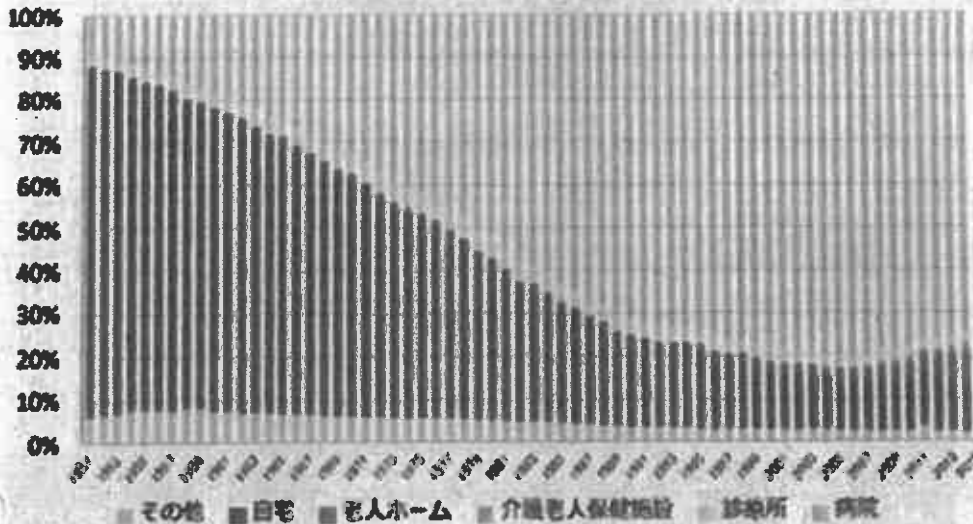
《保健福祉部理事・答弁の主旨》 ↓

高齢の保護者が障がいがある子どもの介護を行う…いわゆる、「老障介護」が社会問題となっており、マスコミ報道などでも取り上げられています。

看取りに関わる状況③ 死亡の場所（年次推移）

- これまで、自宅等における死亡が減少し、医療機関における死亡が増加する傾向にあった。
- 近年、医療機関以外の場所における死亡が増加する傾向にある。

死亡の場所別年次別死亡者数割合

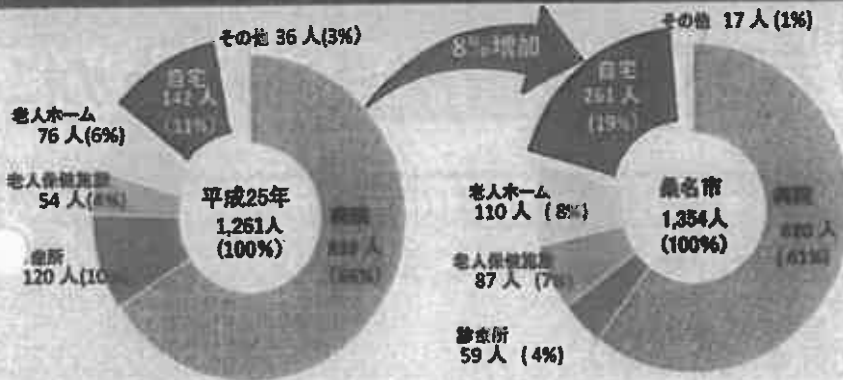


出典：平成27年人口動態調査

(赤いグラフ)病院で最期を迎えられる方が多くなって来ています。出典：人口動態調査

また、内閣府が行った調査(H19年)「高齢者の健康に関する意識調査」では、自宅で最期を迎えたいと希望する人は半数以上にのぼった。それから、15年が経過している現在ではもっと増加していると考えられます。

死亡場所別死亡者数 桑名市(平成25年⇒令和2年)



(出典) 人口動態統計

在宅医療での「看取り」を希望される方は、毎年多くなっています。

【看取り介護】

肉体や精神の苦痛を緩和させつつ、人としての尊厳を残したままの生活支援を目的としている。

《保健福祉部長・答弁の主旨》



令和3年度の桑名市のニーズ調査によりますと、人生の最期を迎える場所として「自宅」を希望される方は約23%、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」を希望される方は約48%となっており、合わせて約7割の方が、出来る限り自宅で過ごしたい、と思ってみえる事がわかります。

もちろん…お金の問題も大切ですが、重要なのが「家族・人間の死」とは…?!という問題です。

例えば何故?…『在宅医療・介護:看取り』が必要か…?と、いう事です。

小学生の児童の約3割、中学生の生徒の約2割が人間・生き物は一度死んでもまた生き返る…と思っている児童・生徒がいるとの調査結果があるのもその主な理由です。

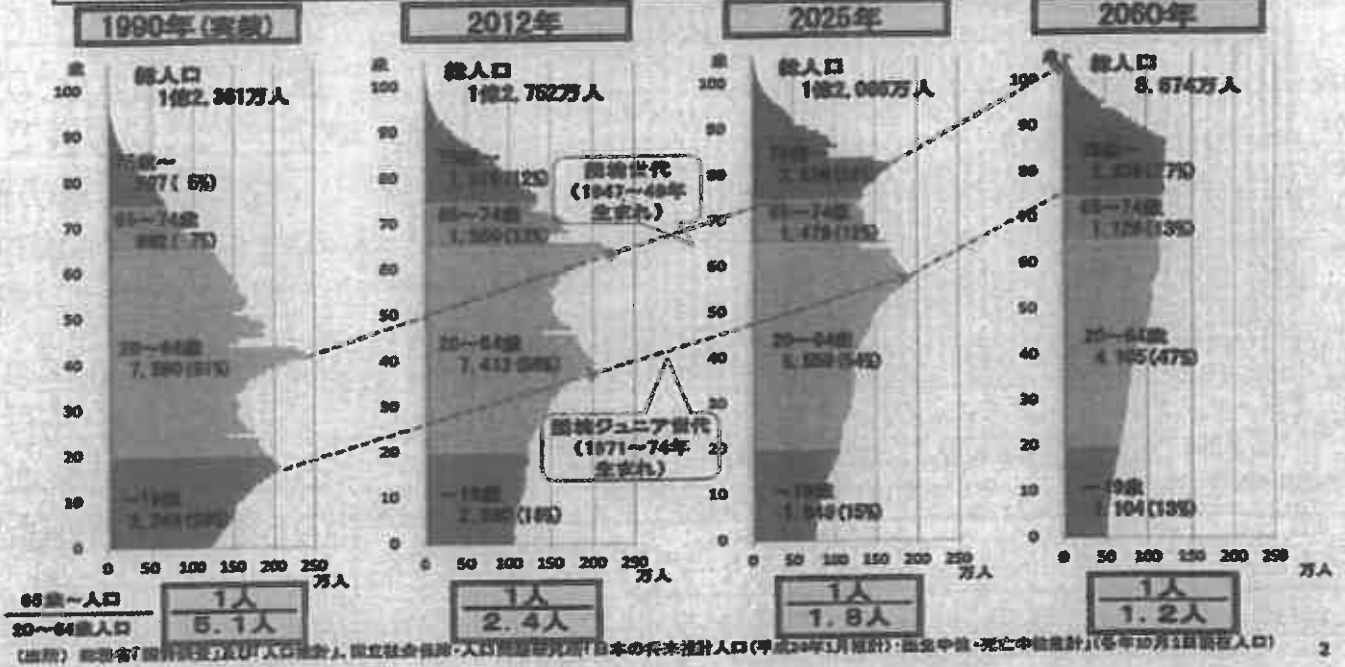
重要なのは「死という事の意味・現実を家族・子どもに伝える+本人・家族の希望」⇒だから、『自宅で看取る』在宅医療・介護の重要性が増してくる…?!との思いで発言。

桑名市地域包括ケア計画にも記載されている「地域支え合い体制づくり」の実践のためには、子ども時代から学校や地域で障がい者や高齢者(老人)と交わる事が必要。

常に現場主義 桑名市議会議員 伊藤研司の発言・活動報告

人口ピラミッドの変化(1990～2060年)

○日本の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を2.4人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2060年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定



地域支え合い体制づくり

在宅医療・介護の推進」+「老障介護問題」を克服するために

《伊藤研司議員・発言の主旨》

「在宅医療・看護の推進+老障介護をなくす為に施設の充実」の問題は相反する問題の提心…?!と、思われますが…私自身、連れ合いを今年の1月に天国に見送り、また30年近く障害者支援事業所や入所施設に関わっている人間の一人として、私の中では同じ問題でもあり、さらに、現在の日本の地域が抱える大きな問題ですからあえて同時に発言します。

在宅医療・介護による「看取り」を増やすための課題と施策は…?!

高齢者の入所希望者は全国で1万8千人が入所待ち。親が70歳台が多い。しかし、入所施設は減少傾向。


有料老人ホーム。サービス付き高齢者向け住宅。軽費老人ホーム(認知症の方々の入居を対象。定員は9～18名)。特別養護老人ホーム。介護老人保健施設。介護養老型医療施設。養護老人ホーム…等々の施設が多くあります。しかし、特別養護老人ホームや養護老人ホームは今後の施設建設はムリなようです。

高齢者入所で最も多いのが、有料老人ホーム(介護付き有料老人ホーム+住宅型有料老人ホーム+健康型有料老人ホーム)だそうです。

「団塊の世代」が後期高齢者になる数年後には、入所を希望しても金銭・施設的にもなかなか困難な時代になると思われます。

支払伝票

令和4年8月8日

| | | | |
|--------------|---|----------------|---|
| 会派名 又は議員名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又は議員印 |  |
| 会計年度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 4 |
| 支払項目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 会議費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事務費 | | |
| 検収年月日 | 令和 4 年 8 月 8 日 | | |
| 支払年月日 | 令和 4 年 8 月 8 日 | | |
| 支払金額 | 120,596 円 | | |
| 支払先 | 日本郵便株式会社 | | |
| 使途内容 | <p style="text-align: center;"> 広報紙郵送代 120,596 円 </p> | | |
| 備考 | <p style="text-align: center;">支払番号「3」の広報紙の郵送代</p> | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書等貼付用紙

| | |
|------|--|
| 整理番号 | |
| 支出科目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 会議費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 事務費 |

領 収 書

第 142308-29 号

| | | | |
|------|------------------------|---|------|
| おなまえ | 桑名市議会 無党派 伊藤 研司 様 | <領収内訳> 現金 120,596 円 小切手 円 切手 円 証紙 円 キャッシュレス決済 円 (決済ブランド名:) | <備考> |
| 受領金額 | 120,596 円 (内消費税額 円) | ※ 金額欄を訂正しているものは無効です | |

| | |
|--|--|
| お取引の内容 | |
| 郵便 切手・葉書・印紙・販売品の販売 郵便料金の収納 (別納 計器予納金 受取人払 着払 その他) | 内特別基 (@ 70 円) × 1652 (枚・個 通) 件 (@ 円) × (枚・個・通) 件 (@ 円) × (枚・個・通) 件 (@ 円) × (枚・個・通) 件 (@ 円) × (枚・個・通) 件 |
| 貯金 | |
| 保・険 | 保険証券(書)の記号番号 払込期間及び払込月数 年 月期から 年 月期まで 年 か月分 年 月期から 年 月期まで 年 か月分 |
| 物販等 | 店頭販売商品の販売 カタログ販売 その他() (申込書番号) |

上記の金額を、確かに領収いたしました。

取扱郵便局 桑名 郵便局

令和4年 8月 8日

電話番号 0594-22-4237

日本郵便株式会社

(所在地: 東京都千代田区大手町2丁目3番1号)

取扱者氏名


※ 裏面の「ご注意」欄をご確認ください。

第 142308-29 号

| | |
|----------------|----------------------------------|
| 領収書等 添付合計金額 | 120,596 円 (内、政務活動費充当額 120,596 円) |
|----------------|----------------------------------|

支 払 伝 票

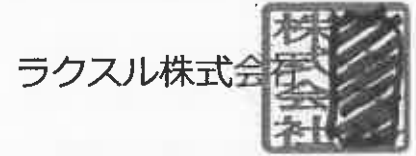
令和 4 年 8 月 8 日

| | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 会 派 名 又 は 議 員 名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又 は 議 員 印 |  |
| 会 計 年 度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 5 |
| 支 払 項 目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研 修 費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人 件 費 <input type="checkbox"/> 会 議 費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事 務 費 | | |
| 検 収 年 月 日 | 令和 4 年 8 月 8 日 | | |
| 支 払 年 月 日 | 令和 4 年 8 月 8 日 | | |
| 支 払 金 額 | 34,679 円 | | |
| 支 払 先 | ラクスル株式会社 | | |
| 使 途 内 容 | <p style="text-align: center;"> 広報紙印刷代(3,000部) 34,679 円 </p> | | |
| 備 考 | | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書

日付: 2022年8月08日
領収書番号: R-220801353102桑名市議会議員 無党派 伊藤
研司 御中〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル 1F
tel: 03-4577-9200 mail: contact@raksul.com**¥34,679-**但し 商品代として
上記金額を正に受領いたしました。

| ご注文番号 | 商品名 / 商品仕様 | 部数 | 出荷日 | 金額 |
|-----------------|--|--------|---------------|---------|
| 220801353102-01 | 冊子・カタログ,中綴じ冊子,左綴じ,8ページ,A4,オフセット印刷,表紙(両面カラー 光沢紙(コート) 薄手:73kg 表面加工なし),本文(両面カラー 光沢紙(コート) 薄手:73kg) | 3,000部 | 2022年 8月8日 | ¥31,526 |

| | | |
|----------|-----|----------|
| 注文内容: | 商品: | ¥31,526 |
| 注文合計: | | ¥31,526 |
| 消費税: | | ¥3,153 |
| ご請求合計金額: | | ¥34,679 |
| お支払い方法: | | クレジットカード |

常に現場主義
過去から未来へ

桑名市議会議員 伊藤研司の発言・活動報告総集編

写真で語る私の政策そして明日へ！

自然農法による農福連携

1995年、精神に疾患があるお子さんがいる保護者の方々から、「桑名市で子ども達が通う作業所(現在では支援事業所)を造って欲しい…！」との要望がありましたので、早速…作業所造りに全力を投入しました。

現在では、「自然農法+農副連携+喫茶事業」に発展しています。



20数年前、はあぶ栽培を始めた頃。



20数年前、農園を耕す作業撮影：伊藤研司



↑土の表面が剥がれているのは、ミミズをエサにしているイノシシがミカンの木の根っ子にいるミミズを食べに来て荒らした様子です。 撮影：伊藤研司



NPOが運営する支援事業所の「はあぶ農園」で作業するメンバー・スタッフ



←ミカン山で草刈りする私・伊藤研司
急斜面での草刈り作業は大変です。

←
無農薬で栽培したミカン
を数十名のボランティア
の方々で収穫している様
子です。(2021年の秋)

障がいがある方々の入所施設開設

1998(H10)年4月1日、桑名地域で唯一の入所施設が開設される。
私…議員にならせて頂いてから、主に知的障がいがある本人を含む家族の方々
と、先進地である、東京の町田市や武蔵野市の施設に見学に行きました。

保護者の方々から、「通所施設も必要だが、入所施設は絶対に必要！」という話がありました。

しかし、入所施設を造るには、社会福祉法人を取得しなくてはならないし、取得するには億以上のお金が必要なので…ムリだと思っていました。

その時、O氏から「桑名市内で障がい者の入所施設を造りたい…等」の話がありました。

市役所職員にその様な話をしていましたら、当時の農林水産課のスタッフから紹介があり、地元のY・Iさんが話をまとめて頂きました。そして現在があります。



↑総合福祉会館での説明会の様子。
←本人・保護者の方々への建設中の入所施設の見学会。 撮影:伊藤研司

訪問入浴サービス事業実施

私・伊藤研司は、訪問入浴サービス事業の実施を強く提言し続けました。提言を受け、桑名市で初めて1995年7月から実施されています。



私・伊藤研司は、「訪問入浴サービス」の必要性を提言し続けました。1995年7月に、桑名市で初めて実施されました。最初は、緊張されていたKさんですが、だんだんと「良い気持ち」になって来られたようで、笑顔も見られました。現在は天国におられます。私も天国に行ったら、Kさんにその時・訪問入浴を受けていた時の気分を聞いてみたいです。(撮影:私・伊藤研司)

「子育てキッズ」の実施

2002年・2004年・2006年と乳幼児・児童への虐待死亡事件が連続して起きたので、私は「子育て難民・乳幼児・児童虐待死亡事件」ゼロを目指すために、まちづくり拠点施設(当時は地区市民センター・公民館)を活用して、地域で親子が触れ合う施策の実施を求めて当局との議論・要求を続けました。

その結果、2010年5月から「大山田・城南・七和」まちづくり拠点施設で、子育てキッズ事業が実施され、活動が本格的に運用されだしてから、桑名市内での乳幼児・児童虐待死亡事件は無くなっています。



←大山田地区市民センター(現・まちづくり拠点施設)での子育てキッズ。(撮影 伊藤研司)



私が撮った写真を示し、全市に広げる事を提言。



↑「ぼかぼか」子育てキッズの成功が「ぼかぼか」の事業につながる。



桑名市
子育て親子に交流の場
キッズサロン人気
利用100人超える日も

子育ての楽しさを共有する場として、桑名市では、子育て親子の交流の場として、キッズサロンが人気を集めている。利用者が100人を超える日もあったという。桑名市では、子育て親子の交流の場として、キッズサロンが人気を集めている。利用者が100人を超える日もあったという。桑名市では、子育て親子の交流の場として、キッズサロンが人気を集めている。利用者が100人を超える日もあったという。

↑新聞記事 2010年6月10日 毎日新聞

「夏休み学童保育」の実現

私は、以前から「社協(社会福祉協議会)が、学童保育事業を行うべきだ」との考えでした。

夏休み期間は、パートの仕事に従事している家庭は、夏休み期間中は困るのではないかと…?! 社協が在良の福祉センターで「夏季の学童保育」を行えば、高



学校ではなかなか出来ない「ふれ合い」ができる。



ボランティアの方々による紙芝居 撮影・伊藤研司



【写真右】↓多度山再生事業のボランティアで大木となつている「山桜」を治療。撮影：私・伊藤研司
(愛宕山神社の裏手)

桑名市民に「生命の水」を供給してくれる『町屋川』



桑名市民に「命の水」を供給する一つの『町屋川水源地』のポンプ類を入れ替えている現場を見学した時の写真。(2010・2011年) 写真：私・伊藤研司

1994年の夏に雨不足で異常渇水？が心配されました。何か心配事が起こると私が見に行っていた「員弁・町屋川の源流付近」(勝手に私が言っている)。1994年にも写真の様に水は流れていた事を覚えています。 写真：私・伊藤研司

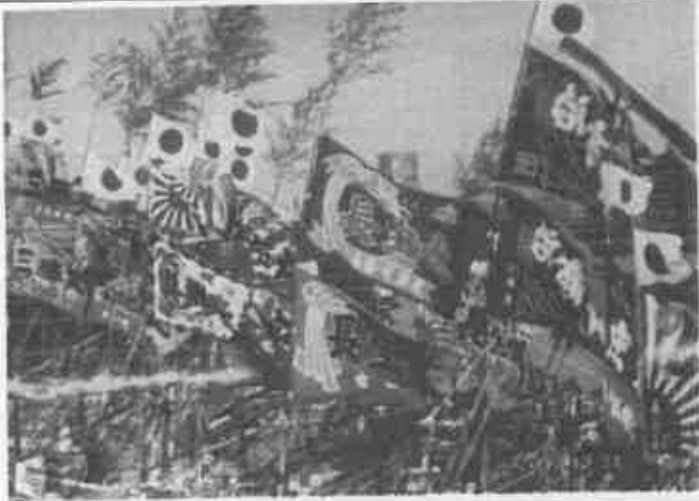


員弁・町屋川水系には、70種近い魚類を中心とした生き物が生息しています。下流での生息調査の写真。 写真撮影：私・伊藤研司



三重県レッドデータブック2005で絶滅危惧種の最高ランクに指定されている「ウンヌケ」と同じ地域で生息している「モンゴリナラ」の木 (五反田丘陵地)

“450年の歴史ある赤須賀の漁業”と “長良川河口堰問題”



正月を感じる赤須賀の大漁旗。正月には毎年見に行っています。 撮影:私・伊藤研



マウンド。浚渫前の長良川(木曾三川公園付近)。大潮干潮時には、対岸に渡れる感覚になりました。



河口堰運用当時、長良川河口堰ゲートを通って漁に向かう漁船。1996年頃。 撮影:伊藤研司



長良川河口堰上流域では、「ヤマトしじみ」は繁殖はしないが成長はするとの言葉を信じて、揖斐川で漁獲した「ヤマトしじみ」を河口堰上流域に放流する漁師。↑
1995年～1998年で566トン放流しました。しかし、漁獲量は1998年以降はゼロになってしまいました。 撮影:伊藤研司



※シラウオ漁から帰って来た漁師。

※2艘の漁船で網を引っ張り漁を行っている。
名四国道の橋から撮る。

撮影:伊藤研司



日の出と共に漁場に出漁する漁船群。 撮影:伊藤研司



漁師の協力を得て、「ヤマトしじみ」を中心とした河床に生息する生き物の調査をする「しじみプロジェクト」のメンバー。



家族・親類の協力を得て、船着き場で「ヤマトしじみ」の選別する漁師。 写真:伊藤研司



愛知県・岐阜県の自然の生態系に関心のある市民の方々10数名が、河口堰による「ヤマトしじみ」への影響について聞きに来られる。



写真→1995年2月9日に当時の建設省が行った調査を私も同行。 写真:伊藤研司
※2022年6月本議会で現在の状況を発言。

命の大切さ!



←私が市議会議員にならせて頂いた最初の頃に、大山田団地の方から要望がありました。それは、「東名阪の上の橋が通学路になっている。その道路(橋)には、落下防止用の柵がない。至急設置して欲しい!」との要望でした。 撮影:伊藤研司

私は、すぐに桑名市の企画課(当時)や公団に出向き、日々…議論を重ねました。すると、思ったより早く柵の設置をして頂きました。



写真上⇒北勢線・馬道駅東の踏切。車の通行も多く、特に…雨降り時には注意が必要。撮影:伊藤研司
 ↑写真下⇒トンネルの通学路。住民の方々によってカメラの設置がされました。 撮影:伊藤研司

↑写真上⇒通学路の安全対策を訴える。撮影:伊藤研司



↑写真上⇒在良学区から明正中学校に自転車通学する生徒の方々が増えたため、通学路を中学校の先生方が安全対策の結果を自転車で走って確認。 撮影:伊藤研司
 写真下⇒トンネルの壁を白く塗って頂く。



↑写真上⇒3・11東日本大震災。名取市閑上(ゆりあげ)地区を視察。

↑写真下⇒3・11東日本大震災の被災地。石巻市・名取市を視察。「徒歩で高速道路上に逃げた人たちが助かった」との住民の方々から話を聞きました。桑名市に戻ってからすぐに市長に面会し、長島町を走る東名阪への逃げ道・階段の設置を強く要望しました。長島地区に数力所の階段・避難所が設置されました。 撮影:伊藤研司



←急傾斜地の下を北勢線が走り、数軒の民家もある。自然を残す「プレスネット工法」での工事。撮影:伊藤研司

大山田川堤防道路 崩壊修繕工事



私は毎朝、陽だまりにあるNPOが運営する支援事業所に行きます。大山田川の堤防道路は、これまでも陥没したことがありますので、いつも注視していました。すると、大山田川の左岸堤の道路面の亀裂が少しずつ大きくなって行くのが気が付きました。道路陥没の危険性を感じましたので、桑名市当局に訴え続けました。車が道路陥没に巻き込まれなくて良かったです。(2015年～2016年) 撮影:伊藤研司



←左の写真は大山田川の堤防道路(人+自転車)の右岸堤です。主に、学生や勤め人の方々が自転車で通られる道路です。左岸堤防の道路陥没の工事が完成して、しばらくの間は安心して走っていましたが、右岸堤防にも陥没しそうな穴が大きくなって行くのが分かりましたので、桑名市当局に訴えました。三重県の方でも実態は把握しているとのことでした。土のうで穴を埋める作業から、工事が行われた様です。事故が無くて良かったです。(2017年) 撮影:伊藤研司

遺跡・文化の保全



旧・愛宕山城に放置されていた庚申碑の数々。10年以上当局にまちづくりの為に、展示するように訴え続けていました。 撮影:伊藤研司

桑名市

庚申碑移設費を計上

市議会提案の35議案発表

桑名市は5月、市議会六月定例会に提案する議案を発表した。一億八千五百万円を増額する一般設計補正予算案など二十五議案。赤須賀地区に建設する漁業観光学園交流センター(仮称)の基本設計費、庚申(ごまじ)しん 信仰を伝える石碑の修繕費などを計上した。(坂田未緒)



走井山城跡で見つかり、修繕移転されることになった庚申碑

漁業交流センターは、国交省が揖斐川右岸で進める高瀬堤防補強工事に伴って移転する公民館、赤須賀漁業協同組合事務所との複合施設として水門近くに建設する。

桑名の漁業の歴史や漁法を紹介する展示室や調理室を備え、産産観光の拠点として、子どもた

したりできるようにする。二〇〇八年度完成予定。今回は基本設計費として約二百万円を計上した。



走井山に設置された「庚申碑」。前のページ右端の「青面金剛:しょうめんこんこう」を含むこれだけの庚申碑が一堂に展示されているのは、東海地方ではここだけ?!では、と思っています。歴史を学ぶ「まちづくり」の観点からも…桜の時期に…是非、訪れて頂きたいです。↑中日新聞 撮影:伊藤研司

桑名城堀に放置された廃船引き上げ



桑名城城壁は、市の文化財に指定されています。余りにも見苦しかったので、廃船の引き上げを訴え続けました。10艘近くの廃船が引き上げられました。撮影:伊藤研司

多度力尾発掘 (2010年2月11日~14日の4日間、発掘調査)

多度・力尾の地層・地質を知ることは、日本列島の生い立ちを知る事にもつながります。多度・力尾の嘉例川火山灰層は、2013年(H25)10月9日、桑名市の天然記念物に指定されました。地質関係の天然記念物は桑名市では初めてです。



大学の先生方とゼミの学生の方々(総勢50名?!)によって行われた発掘調査。↑70~100万年?! 以上も前に降り注いだ火山灰層(高さは5メートル以上)。1ミリにも満たないキラキラ光るコガネムシの様な昆虫も。私も参加。 撮影:伊藤研司

朝鮮韓国伝統音楽グループ「ノリパン」によるサムルノリの舞踊と打楽器



↑写真左:2012年、桑名市の市民会館(現在は柿安ホール)で実施された時の写真です。撮影:伊藤研司
 ↑写真右:2011年、桑名別院本統寺(愛称:桑名の御坊さん)で実施された時の写真です。撮影:伊藤研司
 国際交流の必要性が叫ばれた時代でした。私は当局に「サムルノリの舞踊」を提言し続け、実施されました。

歴史ある鋳物産業でまち興し



写真左・中⇒10数年前に桑名市内の鋳物会社に見学に行った時、写真右⇒鋳物のストーブが避難所で使用すると助かる事を示すために、昨年、地域の避難訓練時に置かれた時の写真です。撮影:伊藤研司
 鋳物は「東の川口・西の桑名」と言われ、桑名の鋳物は全国的に有名でした。東京スカイツリーに鋳物の滑車が使用されている事からも、私は「鋳物産業」は未来産業の一つだと思っています。
 現在私は、鋳物のストーブは世界に発信できるのではないか…?!と、当局と議論しています。

買い物弱者のための政策



農協にお願いしての事業でしたが、補助金が無くなると大幅な赤字になってしまい、事業は数年間で終わってしまいました。
撮影:伊藤研司

エネルギー消費削減の為に



エネルギー削減の為に、庁内の蛍光灯のカバーを外し本数の減少を提言。撮影:伊藤研司

ビラ剥がし



↑090閏金融のビラ剥がしを始める。一時は、脅された時もありましたが、桑名市の事業となつてからは、嫌がらせも無くなった。 撮影:連れ合い(妻)

北勢線の乗客アップを願って「お見合い列車」



以前は、「北勢線の乗客アップ+結婚出来る社会」を目指していましたが、数年前からは、『チャレンジしたら這い上がる事が出来る社会⇔結婚+子育てしやすい桑名市』を目指すための議論…さらに、どうしたら敵地攻撃によってではなく、経済・文化・教育政策によって、市民・国民の生命・財産を守る事が可能か！等々の議論をスタッフと行うようになっていきます。

2007年(平成19年)3月16日
中日

北勢線発 幸福行き 夏にも発車オーライ

桑名市といなべ市を結んだ。
JR東海北勢線での「北勢線利用促進のため」から秋ごろに実施される異、恋が芽生えるかもしれない。十五日の桑名市という伊藤氏の提案に、お見合い列車 桑名市前向き
伊藤研司氏(前 桑名市長官舎建設推進部長)は、桑名市前向きの「お見合い列車」の「北勢線のPRにも大変 有意義」と乗り気の旨い経済効果も、と期待 運行に前向きな姿勢を示す。北勢線対策推進協議会を設立。(桑田末緒)

コロナ禍(わざわい)によって困窮している 障がい者支援事業所への施策



職員の方と、障がい者支援事業所が置かれていて現状を話していたら、後日、地下から一階のフロアでの販売(障がい者の社会参加の為に)が可能となりました。 撮影:伊藤研司


市民・環境派として日々活動している私・伊藤研司は、常に『現場主義』です。現場で触れ合い、感じた事を新聞・本で調べて発言しています。最後まで読んで頂いてありがとうございます。



活動報告書の作成・レイアウトは私自身が行い、印刷費は自費です。郵送代は政務活動費を使っています。

支 払 伝 票

令和 4 年 10 月 5 日

| | | | |
|--------------------|---|----------------|---|
| 会 派 名 又 は 議 員 名 | 伊藤 研司 | 会派代表者 又は議員印 |  |
| 会 計 年 度 | 令和 4 年度 | 支払番号 | 6 |
| 支 払 項 目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 <input type="checkbox"/> 研 修 費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 人 件 費 <input type="checkbox"/> 会 議 費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 事 務 費 | | |
| 検 収 年 月 日 | 令和 4 年 10 月 5 日 | | |
| 支 払 年 月 日 | 令和 4 年 10 月 5 日 | | |
| 支 払 金 額 | 45,766 円 | | |
| 支 払 先 | 日本郵便株式会社 | | |
| 使 途 内 容 | <p style="text-align: center;">広報紙郵送代 45,766 円</p> | | |
| 備 考 | <p>支払番号「5」の郵送代</p> <p>※89,978円については自己負担した。</p> | | |

※領収書及び内容を証する書類を裏面貼付するか添付してください。

※備考欄には按分根拠等、支払の内容説明が必要な場合記入してください。

領収書等貼付用紙

| | | | | | | | |
|------|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|--|--------------------------------|--|--|
| 整理番号 | | | | | | | |
| 支出科目 | <input type="checkbox"/> 調査研究費 | <input type="checkbox"/> 研修費 | <input type="checkbox"/> 会議費 | <input checked="" type="checkbox"/> 広報・広聴費 | <input type="checkbox"/> 資料作成費 | | |
| | <input type="checkbox"/> 資料購入費 | <input type="checkbox"/> 人件費 | <input type="checkbox"/> 事務費 | <input type="checkbox"/> 要請・陳情費 | | | |

領 収 書

第 189527-02 号

| | | | | | |
|------------------------|---------------------|---------|---|--|-------------------|
| おなまえ 研究試会無会派 伊藤研司 様 | <領収内訳> | | | | <備考> |
| | 現金 | 105,744 | 円 | | |
| 受領金額 | 小切手 | | 円 | | |
| | 切手 | | 円 | | |
| | 証紙 | | 円 | | |
| | キャッシュレス決済 | | 円 | | |
| | 内消費税額 | | 円 | | |
| ※ 金額欄を訂正しているものは無効です | | | | | |

| | | | | | |
|--------|-------------------------------|---|------------|--|--|
| お取引の内容 | | | | | |
| 郵便 | 切手・葉書・印紙・販売品の販売 | 定形(区別郵便) (@ 84 円) × 1616 (枚・個) (通) 件 | | | |
| | 郵便料金の取立 | (@ 円) × (枚・個・通) 件 | | | |
| | 別計器予納金 受取人払 | (@ 円) × (枚・個・通) 件 | | | |
| | 他払 | (@ 円) × (枚・個・通) 件 | | | |
| | その他() | (@ 円) × (枚・個・通) 件 | | | |
| 貯金 | | | | | |
| 保険 | 保険料の払込み | 保険証券(書)の記号番号 | 払込期間及び払込月数 | | |
| | | 年 月期から 年 月期まで 年 月期から 年 月期まで 年 月期から 年 月期まで | | | |
| 物販等 | 店頭販売商品の販売 カタログ販売 その他() | (申込書番号) | | | |

上記の金額を、確かに領収いたしました。

2022 年 10 月 5 日

取扱郵便局 桑名播磨 郵便局

電話番号 0594-2244837

日本郵便株式会社

(所在地：東京都千代田区大手町2丁目3番1号)

取扱者氏名 [Redacted]

※ 裏面の「ご注意」欄をご確認ください。

第 189527-02 号

| | |
|----------------|---------------------------------|
| 領収書等 添付合計金額 | 135,744 円 (内、政務活動費充当額 45,766 円) |
|----------------|---------------------------------|